



VOLLEY BALL
バレーボール部
バレー部長・監督 坪田暢允

初の快挙！ 東海リーグ優勝

卒業生の皆さん、その後お元気で過ごしていることと存じ上げます。昭和42年に名大院大に就職して以来バレー部長、監督をしている坪田です。

さて、このたび平成14年度、第11回東海大学男子バレーボールリーグ戦(春季大会)一部において、バレー部は初優勝の快挙を飾りました。これは、大学開設以来、個人種目を除いたクラブにおいて、東海リーグで優勝したのは初めての経験です。バレーボール部は水・土曜日以外は夜に練習をしており、地道な努力が実を結んだものと思われれます。これは部員の努力ももちろんですが、スポーツ推薦制度ができてから、その効果がやがて現れてきたものと思われれます。お蔭様で有力な選手(インターハイ出場)が多く集まり、試合を重ねる度に、強くなっていくといったパターンで、最終戦愛院大との優勝決定戦はフルセットの末、見事破り優勝を飾りました。部員一同たいへん喜んでいますが、外部に名古屋学院大学の存在を示した功績は、評価に値するものと思われれます。

東海地域にお住まいの卒業生も新聞記事ではご存知である方があると思いますが、試合を重ねる度に勝ち進み、たいへん小気味よく感じられたのではないのでしょうか。バレー部は昨年の秋に部に復帰し6位でした。しかし、この春では拳に優勝という栄えある勝利を得たことは、驚異に値するものと思っております。リーグ戦はまず8チーム総あたりで6勝1敗が3チームとなり、本学はセット率で2位でした。その後、強豪上位4チーム(愛院大・愛大・中京大)のリーグ戦で全勝し見事優勝を成し遂げました。反田(主将)君を中心にまとも、非常に攻守のバランスが取れたチームとなつていきます。特に反田君は再優秀選手賞と猛打賞を獲得し、東海はもちろん全国でも指折りのスパーアタッカーとして活躍をしてくださいました。バレーボールで豊田工業に就職が内定し、卒業後も実業団のバレーで活躍すると思っております。この春のメンバーがそのまま秋季リーグに望むので、2連覇の可能性も出てきています。しかし、他大学も本大学を打倒しようとするので、部員一同気を引き締めて、練習に励んでいるところです。また、7月6日に名古屋市内のホテルでバレー部優勝祝賀会を催し、来賓、理事会、父母会、同窓会、部員の両親、教職員の方々の参加を得て、盛大に行われたことを付記しておきます。今後とも卒業生の皆さんのご健勝とご多幸をお祈りしています。



テクニカルスタッフ強化 躍進への挑戦

東海学生ラグビーリーグは、長い間中京大、名城大の二校で優勝争いをし、他の大学の追随を許していませんでした。名古屋大ラグビー部は、創部三年目でAリーグに昇格し、10年間ほどはAリーグで戦いましたが、その後しばらく低迷時期が続いていました。

10年前に、創部以来の丹羽監督が勇退され、81Eの中川誠氏が監督に就任し、1995年にBリーグへ。1998年に、念願のAリーグへ昇格を果たしました。

打倒中京大、名城大そしてリーグ優勝を果たすことを次の目標に置き、練習を重ねてまいりましたが、Aリーグの壁は厚く、なかなか上位には進出できませんでした。

しかし、昨年OBの紹介で、トヨタ自動車の現役を引退したばかりの朽木泰博氏をテクニカルディレクターとして招聘し、土曜日に指導を受け、なんとか上位と互角に戦える実力がついてまいりました。

昨年のリーグ戦では、名城大を35対27で破り、中京大には19対22で惜しくも敗れ



ましたが、愛知学院にも勝ち、あて、つ勝てば2位となり、全国地区対抗に出場できるところまで参りましたが、愛工大、朝日大と続けて星を落とし同率3位という結果となりました。

本年からは、朽木氏に加えて、今年でトヨタ自動車の現役を引退した元全日本のキャプテンでスクラムハーフの大原勝治氏にもテクニカルアドバイザーとして指導に加わっていただくこととなり、全国の大学と比べても遜色のないスタッフとなつたと自負しております。

二人とも三十歳前後の若さで、指導力のもとより、ラグビーに賭ける熱き思いは、部員たちの心を強く惹きつけ、チーム躍進の原動力となるものと確信しております。

大学のご理解と、岡田ラグビー部部長のお首折りで、時17名まで減少した部員が、現在は57名となり、「スピード&クオリティー」の今年のテーマに秋のリーグ戦に向け、痛く苦しく、つらい練習を続け、目標達成を最高の喜びとして、血と汗と涙を品野台のグラウンドに流し続けています。

彼らのためな努力と情熱で目標が達成できるものと信じています。



RUGBY
ラグビー部
名古屋学院大学ラグビー部OB会 副会長
71E 田中和行